

令和7年度第2回寝屋川市ごみ減量化・リサイクル推進会議

日 時：令和7年11月26日（水）10：00～

場 所：寝屋川市クリーンセンター6階 多目的室

議 題：1 ごみ排出量の推移及び基本計画目標値の達成状況について
2 令和8年度寝屋川市一般廃棄物処理実施計画（案）について
3 その他

出席者：花嶋会長、西嶋委員、大島委員、秋山委員、竹川委員、松下委員、森田委員、齋藤委員、北川委員、森委員、石村委員

次第1．ごみ排出量の推移及び基本計画目標値の達成状況について

（資料1に基づき、事務局より説明）

会 長：それではこの件について何かご意見ご質問等ございますか。

委 員：資源集団回収とはどのような取り組みなのか。

事務局：家庭ごみについては、通常寝屋川市で収集をしておりますが、資源ごみを自治会
独自で集められてる活動が資源集団回収になります。

会 長：ありがとうございます。他に何かございませんか。

委 員：表3の家庭系ごみ排出量について、令和3年3月に基本計画を策定されてると思
いますが、資源ごみについては、実績値が毎年下がっており、令和7年と最終年度
の目標値とはそれぞれ大幅に乖離しておりますが、基本計画は途中で見直してない
のでしょうか。また、この目標値の設定の根拠を教えてください。

事務局：一般廃棄物処理基本計画は令和3年度に策定し、最終年度が令和12年度までとな
っておりますが、現状計画の見直し等は行っておりません。計画の目標値についま
しては、令和3年3月に基本計画を策定しましたが、当時はこのまま何も対策をし
ない場合のごみの量を予測した上で、市民の方々に協力をしていただくことによ
り、ごみの量をどれだけ減らせるのかといったことを算定することによって目標値
を設定しております。ごみの総量については、毎年減っていく目標になりますが、
資源ごみについては、増加していく目標になっております。

委 員：つまり可燃ごみや不燃ごみについては、ごみ量は減っていく方がいいが、資源ご

みについては増加する方がいいという考えでしょうか。

事務局：資源ごみに関しては増える目標としております。

会 長：ありがとうございます。最近は新聞の購読量がすごく減ったというニュースを見ました。ちなみにですが、表3にある資源ごみは、資源集団回収による資源物の量は入っていますか。

事務局：資源集団回収の分は含まれておりません。

委 員：古紙について、全国的に人口減少とデジタル化でかなり減少が進んでおりまして、行政回収と集団回収を合わせて、全国では10年間で約36%減少し、集団回収だけでは約46%減っています。古紙という1つの資源がどんどん減っていく中で、現状では行政回収と集団回収の2通りの回収方法がありますが、減っていく1つのパイを取り合う状況というのは、今後は非効率なのかもしれないと思っています。それぞれの回収できる量が減っていきますし、なおかつ売却益も減っていくのではないかと思います。行政回収で回収コストと、売却益を比較したときに、売却益の方が多い状況なのではないでしょうか。多くの自治体では回収コストの方が高くなっており、今後の回収について悩んでいると聞いております。寝屋川市として、今後の方向性について、行政回収と集団回収の両方で進めていくつもりなのではないでしょうか。

事務局：資源集団回収については、市の処理コストがかからないということで、その分を報償費としてお支払いするという考え方で行っております。どちらかを縮小することや、統合するという考えは今のところは持っておりません。

委 員：ありがとうございます。全国的に見直しが必要になってくると個人的には思っております。

会 長：他に何かございませんか。

委 員：大阪・関西万博でペットボトルのラベルを分けて入れるボックスがありました。寝屋川市ではペットボトルと廃プラと一緒に回収していますが、分けて回収したほうが、コストは下がるのでしょうか。ペットボトルはラベルを剥がしていますが、結局は一緒に回収されているので、どうなのかと思っています。もし分けることによってコスト削減に繋がるなら、周知して分けていくほうがいいと思います。

事務局：寝屋川市では廃プラとペットボトルと一緒に収集しておりますが、廃プラとペッ

トボトルは中間処理施設でそれぞれ分けて処理を行っております。ペットボトルについては、ペットボトル本体、キャップ、ラベルに分かれており、ペットボトル本体はペットボトルとして処理され、ラベルとキャップは廃プラとして処理されます。ペットボトルを捨てる時は、キャップとラベルを外していただくと、中間処理施設での手間を省くことができますので、処理のコストを削減できます。

会 長：ペットボトルについてはキャップを外すと、圧縮ができるので、キャップは外していただくとありがたいです。他にありますか。

委 員：例えば豊中市などの多くの自治体で、ペットボトルと廃プラを分けて出している自治体もありますが、我々市民が事前に分けることにより、人件コストを削減する余地があるのでしょうか。

事務局：他市ではペットボトルは資源ごみとして、瓶、缶、ペットボトルとして収集しているところもありますが、現在寝屋川市では、周りの市と共同でペットボトルと廃プラを同じ施設で処理をしており、寝屋川市としては廃プラとペットボトルを一緒に収集するようなスケジュールを組んでいます。これ以上にペットボトルと廃プラを分けるというのは収集のスケジュール上難しいと考えております。

委 員：4市で処理をしているので、そういう状況であることは理解しています。4市でそのような方向性が決まれば、スケジュールを変えることなどは可能性としてできるという理解でよろしいですか。

事務局：現状毎日収集するごみがありますので、どうしてもペットボトルだけを収集しなければならぬとなれば、収集の在り方全体の組み合わせを考えていけば、ペットボトルだけを収集するという事は不可能ではないと考えております。

会 長：ありがとうございます。ペットボトルだけ収集するかどうかは別にして、先ほどご質問にあったような、処理にいくらかかるのかとか、収集後その先どうなるのかに関する情報の提供というのは、とても大切であると、皆様のご意見を聞いて思いました。他にありませんか。

委 員：今のご意見についてですが、分別はたくさんしたほうが良いと思ってしまいがちなんですが、実はそうではなくて、寝屋川市が行っているようにペットボトルと容器プラを一緒に集めることが一番効率が良いと言われております。例えば、ペットボトルだけを収集しても、結局はそこには異物が混入されたりだとか、汚れが

付着していたりだとか、回収した後に選別をしないといけません。それだったら、ペットボトルだとか容器プラ、製品プラを一緒に集めて、最後にまとめて選別したほうがコスト面においても効率がいいですし、住民さんとしても、ペットボトルとプラだったら、この袋、この日というのがわかりやすいので、より分別を進むということが、日本もそうですし世界的にも言われております。実は分別を細かくすると、住民さんにとっては負担で、行政回収した後もコストがかかるということで、量的にもコスト的にも非効率になってしまうと言われておりますので、今の寝屋川市の収集がペットボトルに関しては、一番いいのかなと思っております。

会 長：ありがとうございます。

委 員：ペットボトルからラベルとキャップを外して捨てると、後で分別しやすいということ、外されてない分はあとで分別するというのを、多分みんな知らない。ラベルとキャップを外しても一緒に燃やすのかなというような感覚だったので、分別することにより、コストが抑えられるということを理解しました。

会 長：ありがとうございます。他に何かありませんか。

委 員：資源ごみについて、買い物をするとき、例えば調味料だとビンの容器やプラの容器などがありますが、どの容器を選んだら、一番環境にいいのかと考えたりします。以前、他県に住んでおりましたが、その時は、瓶は色別に分けられて回収されておりました。寝屋川市はそういうことはしなくてもいいのでしょうか。また、缶について、アルミとスチールを分けたほうがいいのかお聞きしたいです。

事務局：先ず、ビンについてのご質問ですが、ビンはそのまま出していただいて結構です。寝屋川市で適正な処理を行います。次に、缶類についてはアルミ缶とスチール缶があるかと思いますが、スチール缶は磁石でくっつくことから、寝屋川市の処理場で、磁石で分けますので、一緒に出していただいて、問題ありません。

会 長：ありがとうございます。先ほどのご質問で、ビン、プラ、紙パックとかいろんな容器があるが、どれを選べばいいのかというご質問もあったかと思うのですが、私が知ってる限りでは、ライフサイクルアセスメントという調査で、2000年代ぐらいの調査結果しか知らないんですけれども、その近くにどういう設備があるとか、それぞれの自治体のやり方にもよると思いますが、リユースビンがあったころ、中身を使ったら、返して、洗って、もう一度販売するといった仕組みがあった

ころはそれが一番良かったのですが、今は洗って詰め替えるということは、なかなか行っていないので、スーパーで買うときにどれがいいのかについてはお答えが難しいですが、意外に紙はライフサイクルアセスメントによると、環境負荷が小さかったりするのですが、ものによっては中の品質を守るために、アルミが貼ってあったりだとか、リサイクルできないものだったりします。選ぶときにどれを選ぶと環境に負荷が少ないのかという情報があるといいですよ。今のご質問によりそういうことも知りたいんだっていうことがよくわかったと思います。京都とかには全部量り売りのお店とかもあるみたいです。

ありがとうございました。他になければ次にいきたいとおもいます。

次第2．令和8年度寝屋川市一般廃棄物処理実施計画（案）について

（資料2に基づき、事務局より説明）

会 長：それではこの件について何かご意見ご質問等ございますか。

委 員：小型家電を回収ボックスに入れた場合、中に入っているデータや個人情報を守られるのでしょうか。

事務局：回収ボックスで回収された小型家電については、枚方市と共同処理をしております。データの消去は個々には行っておりませんが、国から認定を受けた業者に委託しておりますので、集めたものから個人情報が漏れるとかそういったことはないと考えております。

会 長：ありがとうございます。他に何かご意見ご質問等ございますか。焼却による発電量は、例年同じぐらいで推移しているのでしょうか。それとも、ごみ量が減ってきているので、発電量も減ってきているのでしょうか。

事務局：ごみの焼却による発電につきましては、クリーンセンターで行っており、焼却処理量が減ると発電量も減ることになります。それ以外には、炉の点検の際に、焼却そのものが止まりますので、発電も止まることになります。焼却量は減ってきているのですが、効率よく運転し、なるべく発電量を維持していきたいと考えております。

会 長：これまでの発電量のデータはありませんか。

事務局：実績といたしましては、この施設が開業して以来、毎年同じ程度の売電量を確保

しています。

会 長：市内利用だけでなく、売電できてるんですね。焼却可能量に比べての焼却量っていうのはどのぐらいなのでしょう。焼却能力に比べて、いっぱいいっぱいなのか、それともある程度余裕があるのか、その辺についてお伺いできればと思います。

事務局：現状はごみ量が減ってきていますので、焼却可能量に対して余裕があるようになってきています。

会 長：他所のごみをもらってきて発電し、発電による売電で、市の財政に入るみたいな話もありますので、もし余裕があればと思って聞いてみました。ありがとうございます。他にございますか。

委 員：8ページ、9ページの事業系ごみについて、再生輸送業と活用業の違いについて教えていただいてもよろしいでしょうか。

事務局：再生活用業につきましては、そこで実際処理をされるところになっており、再生輸送業につきましては、再生活用するものを運ぶものが再生輸送業になります。

会 長：ありがとうございます。他に何かありませんか。

委 員：本年度から小・中学校の給食センターが稼働となり、食品リサイクルを行っていると聞いています。一部大手のスーパーなどは、食品リサイクルをしやすい品目については、リサイクルが進んでいきつつあり、事業者側でもリサイクルの意識が進んできたと考えております。寝屋川市としてこの方向性は進んでいくという考えなのか教えていただきたい。また、寝屋川市はいろいろな事業をやっていると思うのですが、そこで問題になるのは費用対効果だと思います。そのコストに見合うものかどうかは検討されるかと思うんですが、寝屋川市の幹部の方は、視察や勉強会のようなところへ行くと思いますが、寝屋川市として、実際にできるような事業があるのか、またその事業についてどのようなところにハードルがあるのかというところを教えてください。

事務局：まず前段おっしゃってた学校給食の食品リサイクルにつきましては、集合して調理するところが1つ設置されたところで、今後もそのような新たな給食調理施設ができたときは、同様の処理をしてもらえると考えております。市内のスーパーにつきましても、今年度は新たに食品リサイクルに取り組まれるというスーパーが何社

かありまして、今後もそういった取り組みが広がればいいなと我々も考えております。また新たな事業につきましては、民間事業者などから、このような取り組みがあるよとかそんな情報があったときに、民間事業者の力も取り入れて、新たなリサイクル事業を取り組んでいけることはないかと常に検討させていただいてるところです。

会 長：ありがとうございます。他にご意見等ありますでしょうか。では、9ページに、一般廃棄物再生利用業指定業者再生利用業食品循環資源と書いてあるが、こちらは何をやっているのでしょうか。

事務局：こちらに記載の業者は処理施設を持っているが、現状、小規模な施設であるため、たくさん受けれるような状況ではないと聞いています。

会 長：ありがとうございます。他に何かご意見ご質問等ございますか。

委 員：15ページのポータブル電源等が追加された背景の説明をお願いします。またリチウムイオン電池などによる火災に対する予防の啓発について、行っていたかと思いますが、どのように考えられているのかご説明をお願いします。

事務局：ポータブル電源を新たに追加した理由ですが、通常モバイルバッテリーは小型充電式電池の回収ボックスに入れていただければ、寝屋川市で回収を行うのですが、ポータブル電源については、サイズが大きいこともあり、受け手がないということで、今回追加しております。また、火災予防の周知につきましては、近年リチウムイオン電池が原因と思われる火災が多発していることもあり、火災を防ぐために分別の徹底をお願いしており、市の広報誌や様々なイベント等に我々も参加することで、火災が起きてる事実や分別の周知に努めさせてもらってるところです。

会 長：ありがとうございます。

委 員：近年パッカー車が火災で廃車となりましたが、どれほどの損害になったのか教えていただきたいです。

事務局：令和5年3月に寝屋川市のパッカー車が不燃ごみの日にスプレー缶の混入により火災が発生しまして、車両の購入価格は約770万円ということで、修理費用を見積もったところ、購入価格とほぼ同額となり、また車両の使用年数等から比較すると、廃車が妥当であるだろうということで廃車をしました。委員さんのみなさんにもご家庭でごみの排出されるときには十分気をつけていただくように、よろしくお

願いたします。

会 長：他に何かございますか。

委 員：前回の会議でスプレー缶を出すときに、穴を空けたりせずに、そのまま出しているとおっしゃっていましたが、未だに出すときに、本当にいいのか躊躇するときがあります。なぜそのまま出してよくなったのか教えていただきたいです。

事務局：スプレー缶については、穴を開けようとして、何かに引火したという事例があったので、ご協力していただいている市民さんには感謝申し上げますが、やはり無理なご負担をかける必要性がないという判断に至ったというところです。基本は、中身が入っている場合は空になるまで使っていただき、その上で、何も穴を開けず、排出していただきたいと考えておりますので、ぜひよろしく願いたします。

委 員：寝屋川市ではスプレー缶の中身の入った状態で出てきたときはどのように処理されているのでしょうか。

事務局：中身があるものはうちの方で、機械を用いて、1個ずつ手作業で穴を空け、中身を抜いています。

委 員：スプレー缶について、塗料のスプレー缶がありますが、中身の半分ほどは残っている状態で、古くなり、使用もできないようなものはどう処分をすればいいのか教えていただけたら助かります。

事務局：家庭用でご使用されているスプレー缶については、基本はできる限り中身を抜いていただきたいです。ただし状況によっては、硬化してる場合もありますので、その場合であれば中身を抜くことは難しいので、そのまま出していただいて結構です。使えそうなものがあれば、誰かにお譲りするとか、もうどうしようもない場合は、そのまま捨てていただきたく思います。また、わからない点があれば、環境事業課にお電話していただいたら対応をさせていただきますので、よろしく願いたします。

会 長：ありがとうございます。他になければ、次にいきたいとおもいます。

次第3. その他

事務局：次回会議の日程は2月頃を予定しております。また日程が決まり次第、皆様にご案内させていただきますので、よろしく願いたします。

会 長：ありがとうございます。他にご意見ご質問等がなければ、本日も予定しておりました案件はすべて終了しました。